

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態																																
医療統計学		1	後期	2	講義 30時間																																
担当教員	梶本輝樹																																				
授業概要	医療における量的研究の内容理解と研究計画に求められる知識の修得をはかる。																																				
到達目標	1. 医療における研究のデザインを理解する。 2. 基本的な統計処理方法を理解する。 3. 研究目的に応じた適切な研究デザインを選択できる。 4. 研究論文に用いるサンプルサイズ、尺度の信頼性・妥当性、データ分析方法を理解する。																																				
履修条件	特になし																																				
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>量的研究と統計学</td></tr> <tr><td>2</td><td>医療における研究の始め方</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究デザイン</td></tr> <tr><td>4</td><td>記述統計(平均値、中央値、標準偏差)</td></tr> <tr><td>5</td><td>仮説検定の考え方</td></tr> <tr><td>6</td><td>治療効果・曝露効果の指標と95%信頼区間</td></tr> <tr><td>7</td><td>2群の比較</td></tr> <tr><td>8</td><td>ノンパラメトリック検定</td></tr> <tr><td>9</td><td>分散分析</td></tr> <tr><td>10</td><td>相関と回帰分析</td></tr> <tr><td>11</td><td>ロジスティック回帰</td></tr> <tr><td>12</td><td>サンプルサイズ設計</td></tr> <tr><td>13</td><td>多変量検定</td></tr> <tr><td>14</td><td>テキストマイニング</td></tr> <tr><td>15</td><td>評価尺度の信頼性と妥当性</td></tr> </tbody> </table>					回	内容	1	量的研究と統計学	2	医療における研究の始め方	3	研究デザイン	4	記述統計(平均値、中央値、標準偏差)	5	仮説検定の考え方	6	治療効果・曝露効果の指標と95%信頼区間	7	2群の比較	8	ノンパラメトリック検定	9	分散分析	10	相関と回帰分析	11	ロジスティック回帰	12	サンプルサイズ設計	13	多変量検定	14	テキストマイニング	15	評価尺度の信頼性と妥当性
回	内容																																				
1	量的研究と統計学																																				
2	医療における研究の始め方																																				
3	研究デザイン																																				
4	記述統計(平均値、中央値、標準偏差)																																				
5	仮説検定の考え方																																				
6	治療効果・曝露効果の指標と95%信頼区間																																				
7	2群の比較																																				
8	ノンパラメトリック検定																																				
9	分散分析																																				
10	相関と回帰分析																																				
11	ロジスティック回帰																																				
12	サンプルサイズ設計																																				
13	多変量検定																																				
14	テキストマイニング																																				
15	評価尺度の信頼性と妥当性																																				
教科書	指定しない。適宜印刷物を配布する。																																				
参考書	授業中に適宜紹介する。																																				
評価方法・基準	講義回ごとの演習と講義の参加度(60%)、最終レポート(40%)で評価する																																				
事前・事後学習	既習内容をふまえた講義となるので、講義ごとの演習時に自分の理解度のチェックと復習を行うこと。目安として2時間程度を想定している。 最終レポートとして扱う内容は、予定する研究テーマをふまえ、研究計画書の解析部分に相当する部分とする。																																				
備考	特になし																																				